

別記  
第1号様式(第14条関係)

環境マネジメントシステム導入報告書

( 宛 先 ) 京 都 府 知 事	2015年 7月13日
報告者の住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地) 京都市南区吉祥院西ノ庄猪之馬場町1番地	報告者の氏名(法人にあっては、名称及び代表者名) 株式会社 GSユアサ 代表取締役 村尾 修

環境マネジメントシステムの名称	ISO14001
適用範囲	京都事業所
導入年月日	1997年 12月 24日
認証番号	EC97J1151
基本方針	当事業所の活動(バッテリーをはじめ、電源システム、照明機器等の開発・製造・販売)、製品及びサービスが環境に与える影響を的確に捉え、次の方針に基づき環境マネジメントシステム及びパフォーマンスの継続的改善を図ります。
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標(以下「目標」という。)	2014年度取り組み目標(抜粋) ①省エネルギー(CO2原単位) ~2013年度比1.0%削減 ②下水排出量(原単位)削減 ~2013年度比0.5%削減 ③環境保全 ~水質汚濁防止法・点検対象施設の構造改善 ④製品開発・販売 ~HV車用補修密閉電池の新商品発売 コンテナ式蓄電システムの開発 LED高天井灯の拡販
目標を達成するための取組の内容	①省エネルギー(CO2原単位)~ ・省エネ設備の導入 ・設備等の運転方法改善 ・不良率の低減 ②下水(原単位)削減~ 循環水化の推進、社水の使用抑制 ③環境保全 ~ 点検容易化のための工事。点検手順の見直し ④製品開発・販売 ~ 計画に基づく開発・販売進捗
目標を達成するための取組の進捗状況	①省エネルギー(CO2原単位)~ 予定通り省エネ設備・機器導入済。 ②下水削減~ 循環水適正使用の推進中。 ③環境保全~ 対象施設につき工事了。 ④製品開発・販売~ 計画通り進捗。
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	①省エネルギー 生産時の電力消費が少ない製品の売上減少や、生産に寄与しない研究開発等の電力の増加があり原単位が悪化した。 ②下水~ 前々項の取組により目標を達成した。 ③環境保全~ 漏水を容易に見検できる施設構造、手順ができた。 ④製品開発・販売~ 計画どおりに進捗。社会に貢献できた。
事業活動に係る法令の遵守の状況	順守すべき法規制や規定などを定期的に見直し、モニタリング活動などを通じて、その順守状況を管理している。 結果、コンプライアンスに障る様な違反は起こしていない。また、環境関連の訴訟、罰金、過料なども発生していない。
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	ISO14001に定めるマネジメントレビューにより、原則として毎年1回評価・見直しを行っている。 平成27年度活動については、 ①フロン排出抑制法に確実に対応する為のルール作りと運用を行う。 ②省エネは他律的な要因を除いた「実力値」に基づいて管理し活動する。 ③廃棄物に対するリスク及び処理負荷の低減対応を強化する。 ことを柱に方針および目的・目標を見直した。

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合にのみ記入してください。